

## 五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2023年1月27日

teamLab Planets

豊洲チームラボプラネッツ

先日レポートしたカリフォルニア州のグロサリー店で起きている卵不足ですが、鳥インフルエンザによる問題は他州でも拡大し、品不足が未だ続いております。

家庭の懐事情に直撃する値上げの影響で、写真のようなプラントベースド卵の需要が増加中です。



逆に鳥インフルエンザを商機とみている JUST Egg ブランドを持つ Eat Just 社はこのタイミングで『植物はインフルエンザにかかりません』という広告メッセージを発信しました。

プラントベースドの食品は、環境保護などの高い意識を優先するミレニアル世代を中心に人気が集まり、Eat Just 社の売上も 2022 年度で 24% の伸長率を記録しました。

そして、一般的な消費者までもプラントベースドに関心を寄せ始め、今年はさらなる成長が期待されています。



話は変わりますが、現在日本に短期ではありますが滞在しております。

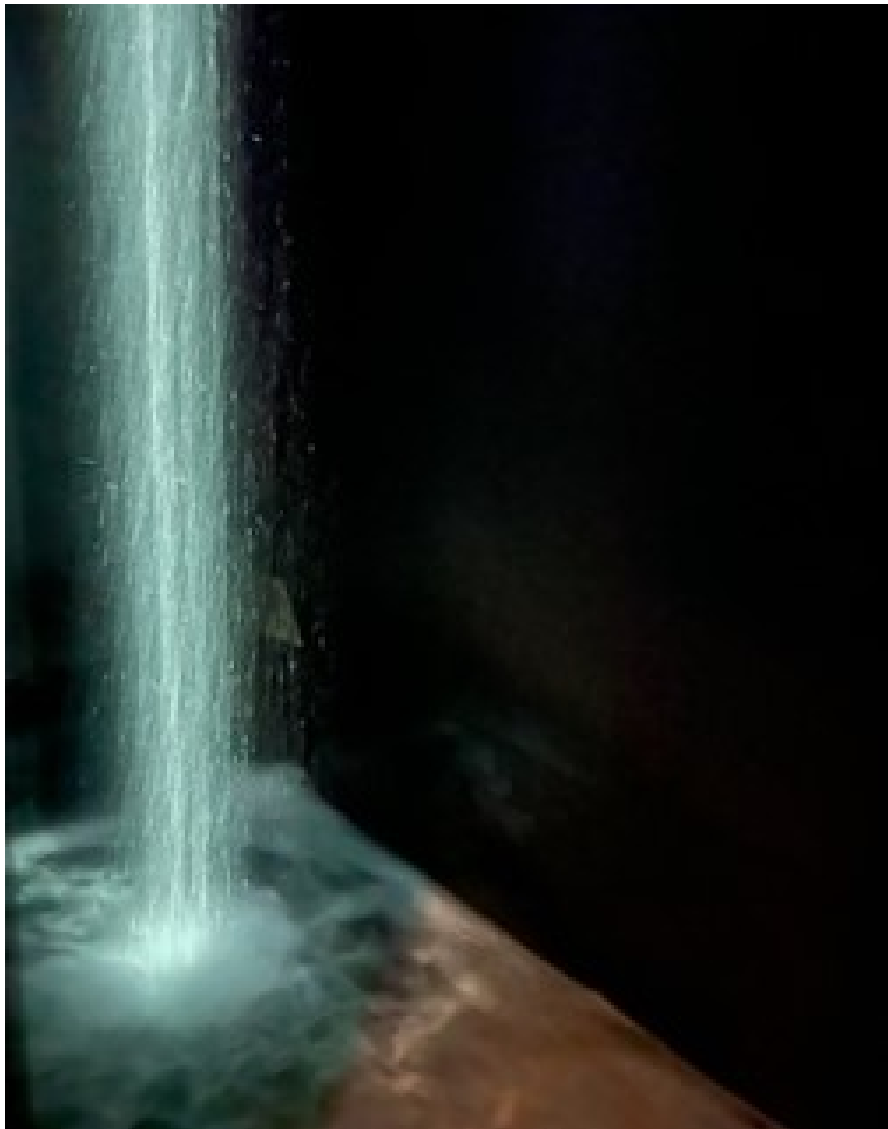
「まさか卵を求めて日本まで？」という訳ではございませんが、ちょっと興味深い体験をいたしましたのでシェアしたいと思います。



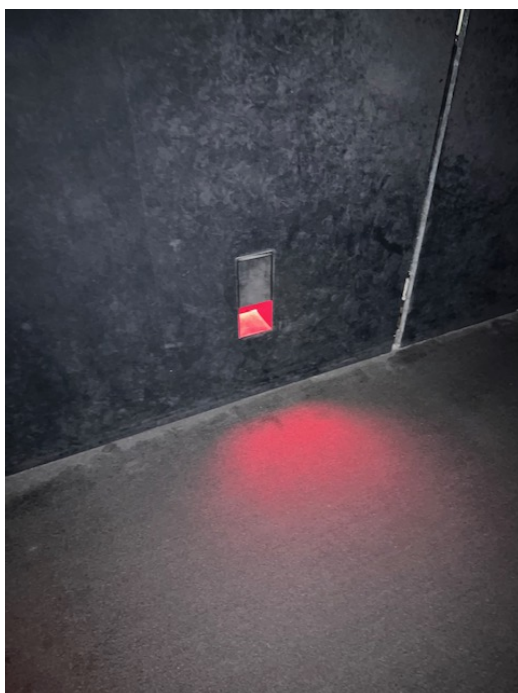
臨海線ゆりかもめに乗り、新豊洲駅を下車すると 2018 年にスタートした teamLab プラネッツというデジタルを利用して作り出す不思議な体験型ミュージアムがあります。

そこへ誘ってくれたのは昨年より弊社の視察手配をサポートしてくれている Jim というロス在住の米国人です。

彼も一緒に来日しておりました。



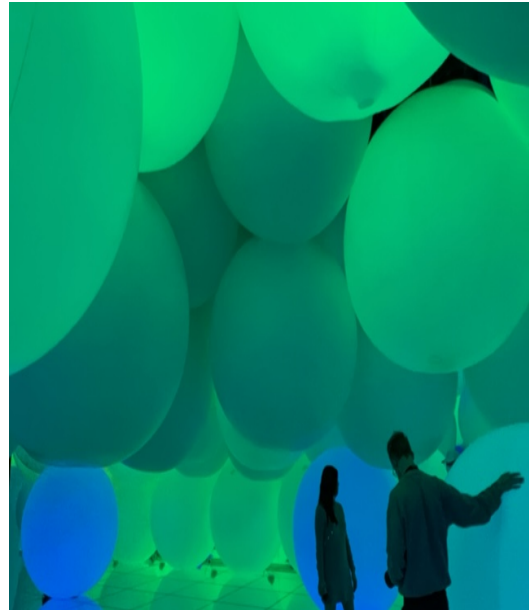
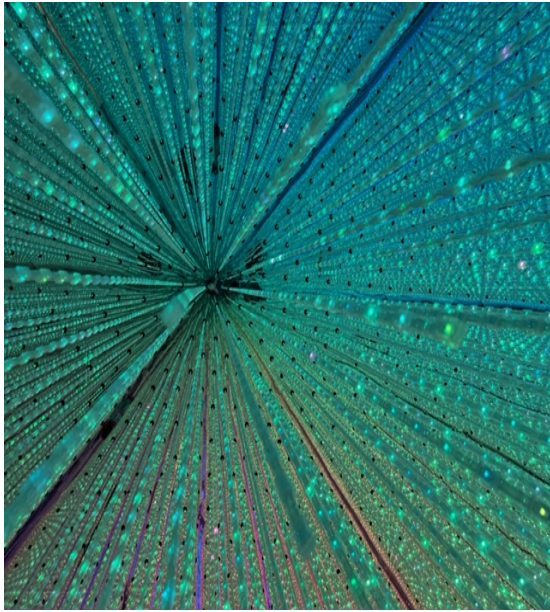
テニスコート 38 面分もあるという広大な敷地の中には『水、光、花』などとデジタルで表現される不思議な空間が創られており、その中へ履物と靴下を脱いで裸足になって体験します。



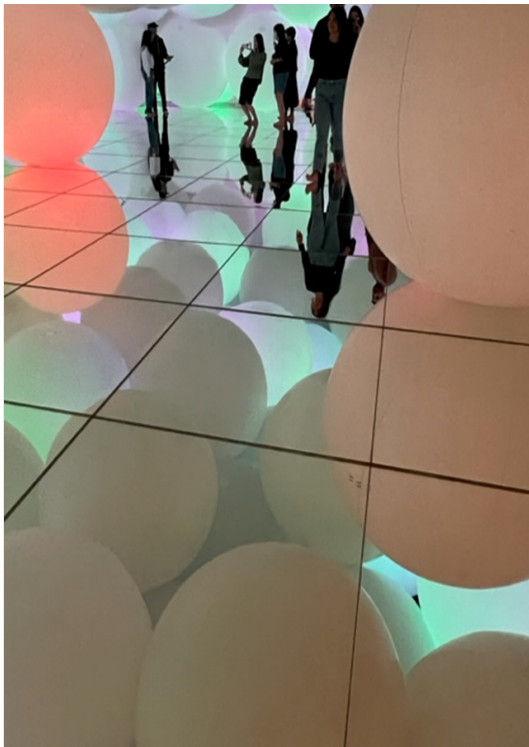
最初は膝下まで水に浸かりながら（消毒液の匂いがしたので、ここで殺菌しています）光が漂う空間を歩きます。



そして、次は写真のような巨大な布団の中を進んだ後、



光の海の中へ突入いたしました。  
そしてプロジェクションマッピングで映し出される展示から球体と光と音が織り  
なす空間へ入りました。



ここで表現されていた音や球体の動きは入場者が触れることによって創造されると説明があり、一瞬一瞬が異なった常に新しい体験だそうです。



次は草の上に銀色の卵（卵繋がりです）に似た物体が並び、ガーデンで様々に動いておりました。



最後は 13000 本のリアルな蘭の花を使用した展示で、寝転びながら自分が花を見つめるとその方向へ向けて花が動いていくといった魔訶不思議な空間と時間を味わいました。

全体約 90 分で、似たような展示も多かった CES から戻って未だ数日後でしたので私の頭も何とかついていけましたが、そうでなければ、かなり衝撃的な内容だったと思います。



デジタルを通じて、それぞれの人々がその都度様々で異なった体験をします。一つたりとも同じものはないそうです。

そこで閃いたのは、Amazon が昨年5月にスタートした DX を駆使した 40 か所の試着室を持つアパレルショップ Amazon Style でした。



消費者それぞれ個人がお気に入りの服や雑貨チョイスし、そのチョイスを AI のお薦め機能がカスタマイズし、商品を試着室へ届けてくれるのです。

ということで、小売業のお話を移動中の車内でも途切れることなく話す五十嵐が、今回の経験でさらにインスパイヤされました。

これ以上のお話はどうぞ米国にお聞きにいらして頂ければと思います。  
こんな笑顔で皆様をお待ちしております！  
来週は、移動なのでお休みさせていただきます。

